

# 山岳友の会会報

2023年10月 第49号



蝶ヶ岳のライチョウ\_231017 鈴木撮影

## も く じ

第64回現地研修会（蔵王山）	報告1	笹木 伊都子	2
	報告2	堀内 恭子	3
	報告3	田下 逸男	4
第65回現地研修会（御嶽山）	報告	塩澤 乃武行	4
明神養魚池メンテナンス（23.10.21）			
	報告	小林 久雄	6
追悼 立花 裕美子さん	山口 孝 竹原 文子 小林 久雄 澤田 義幸		6

## 第 64 回現地研修会

「蔵王山と弥彦山を歩き、蔵王温泉大露天風呂と瀬波温泉」に参加して  
— 第 64 回現地研修会（蔵王山）報告 その 1 —

笹木 伊都子

とても久しぶりの参加でした。皆さんの歩く速さ、コロナなど参加する機会がなかなかなかったのですが、行き先は東北でしかも 1 人では難しい「ミニ稜線歩き」。1 人だとまた車を回収に戻って来なければなりません。これは参加しなければ！と申し込みをしました。

いつも集合時間に早めに行っても既にバスでお揃いという事もあり、30 分前に着きましたが、まだ誰もいらっしゃいません。思わず行程案内の集合時間を見直してしまいました。

やがて皆さんお集まりになって、松本駅アルプス口を定刻に出発。早速酒盛りもスタートです。久しぶりの参加でしたが、この流れはちっとも変わっていません。久しぶりにも関わらず皆さん声をかけて下さり、まるで先月も会ったかのように接して下さいます。嬉しい事です。

途中 SA に寄りながら上杉神社参拝をして蔵王国際ホテルへ到着。着くなり溪流露天風呂へ。野趣あふれる露天風呂に身体を沈めますが、何分連日の猛暑、長くは入ってられません。ホテルに戻ってからも食事前にひとつ風呂。ホテルの中のお風呂も旅行雑誌の表紙を飾るような落ち着いた趣のあるお風呂でした。

翌日はいよいよ蔵王山から刈田岳です。ロープウェイを下りて地蔵尊の前で 9:10 集合写真。ここからは自由行動だそうです。自由になれる雰囲気ではなく、皆さん競うように出発されます。直登コースと巻き道があり、いつもの私ならのんびり巻き道コースを取るのですが、全員直登コース歩き始め、私も頑張っついていきます。鈴木先生からは「3 時間あるから歩けるだろう？」と言われ安心していましたが、置いて行かれるのはやっぱり寂しい。お花の写真は諦め、ひたすらついていきます。東北は連日 36 度。暑いと覚悟していましたがさすが稜線歩き、良い風が吹いてくれます。友の会には珍しく素晴らしいお天気です。遠く朝日岳も望めますが、たくさんの山が見え過ぎてどこがどこの山かも分からないくらい。地蔵岳から 10 分ほど歩くと遠刈田温泉に建つ「刈田嶺神社里宮」から刈田岳山頂に建つ「刈田嶺奥宮」をつなぐ修験の道、蔵王古道ワサ小屋跡を通過。おワサさんという老婆が小屋番をして参拝者の面倒をみていたそうです。登山道の両脇には白いヤマハハコと青紫色のエゾオヤマリンドウが咲き誇ります。リンドウは日本で約 13 種あるそうで、見た目よく似ているのはエゾリンドウやオヤマリンドウがあります。エゾリンドウは茎頂と葉腋に花をつけます。リンドウは同じように花をつけますが、晴れるとぽっかり口をあけて開き茎が倒れ掛かる事が多いです。エゾオヤマリンドウは山形県以北～北海道に分布し、エゾリンドウの高山型とか。漢字ででは「竜胆」と書きますが、根を噛むと非常に苦く、熊の胆よりも苦い事から竜の胆、「竜胆」と書き、胃の薬として利用されます。歩きながら「この花何だろう？」と言っていた白い穂状の花はシロバナトウウチソウでした。中国で組紐を意味するトウチ（唐打）の名前が付いたのだそうです。学名の最後に Makino とあるのは牧野博士が名前を付けたのでしょうか。

目を見張るような美しい御釜にしばし足を止め、11 時頃刈田嶺神社に無事到着。昼食の後バスに乗り込み一路瀬波温泉へ。ホテルの玄関には有名な塩引き鮭が吊り下げてあります。

三面川に遡上してきた脂の乗った身の締まった雄鮭の内臓を取り除き、塩を揉み込んで数日置いた後塩抜きし寒風にさらします。頭を下に干すのは村上独特の吊り下げ方で、城下町だった村上では鮭でさえもお殿様に頭を高く出来なかったからと言われます。初めてこの鮭を食べた時には感動して、鮭 1 尾 1 尾に付いた個体管理用の木札を今も大切に持っています。

最終日は弥彦山です。時間がなくて山頂までは行く事が出来ませんでした。越後平野や日本海を望むことが出来ました。この山は春にはカタクリやコシノコバイモ、オオミスミソウなどが咲

き、角田山や樋曾山とともに楽しめる山です。

最後に寺泊のお魚センターに立ち寄りしましたが、昼食のカニをお腹いっぱい頂いたせいで、お魚を買う意欲が湧きません。小あじを買っただけで終了。今回の旅はとにかくいつもお腹いっぱい。帰りのバスでも座っている事が辛いくらいで、隣の鈴木先生に「リクライニングすれば楽だよ」と助言されながら帰路につきました。

これまでより静かな印象の旅でしたが、お天気も良く充実した 3 日間でした。楽しく過ごさせて頂いた皆様に感謝致します。

## 楽しかった山旅

### 一第 64 回現地研修会（蔵王山）報告 その 2ー

堀内 恭子

8 月 30 日

松本駅から色彩やかなバスに乗り込むと、久しぶりのメンバー 12 名と出発。いつものように飲み会になってにぎやかだ。まわりは一面の黄金色の田んぼ。稲刈りも始まっている。

上杉神社へ参拝する。バスの外は入道雲がモクモクですごい暑さだ。「なせば成る、なさねば成らぬ何事も、成らぬは人のなさぬなりけり」の石碑があった。

「そうです。人間その気になれば、どんな事でもできる」と思う。

蔵王国際ホテルへ到着。すぐに溪流大露天風呂へ。

ホテルでの夕食は地酒を始め、米沢牛のしゃぶしゃぶ他、美味しい料理を食べながら皆と話がはずむ。全国一位のホテルの露天風呂も趣があり、素晴らしかった。

8 月 31 日

ロープウェイ山頂駅から、地蔵岳、熊野岳へ。登山道には、りんどう、ヤマハハコ、アキノキリンソウが咲いている。

せっかち組はドンドン先に行ってしまう、姿が見えない。時折の涼しい風で暑さも吹き飛ばす。避難小屋下のガレ場を下ると、エメラルドグリーンの水をたたえたお釜が見えてきた。「火山活動に異変がある場合は、避難するように」の看板があちこちにある。

ここは活火山なんだと改めて納得。馬の背を通過して刈田岳へ。レストハウスで昼食をとり、バスで瀬波温泉へ向かう。

ホテルの大浴場からは白い砂浜と青い空、海が目の前だ。夕食は海の幸がたくさん。食べ切れないと言いながらもハシが進む。皆、来年の山の話で盛り上がっている。

9 月 1 日

朝、空は一面のうろこ雲、日ぐらしの声、赤トンボ。暑い暑い夏も少しずつ秋に向かっている。

ロープウェイで弥彦山山頂へ。佐渡ヶ島がすぐ近くに見える。海の幸ランチはおさしみ、たら汁、カニとすごい。皆、無口になってカニと格闘している。

寺泊でおみやげを買って帰路につく。

皆とよく飲み、よく食べ、たくさんおしゃべりをして楽しく過ごしました。ありがとうございました。

## 第 64 回現地研修会


『蔵王山と弥彦山を歩き、蔵王温泉大露天風呂と瀬波温泉』報告 その3

田下 逸男

初日の上杉神社は周辺の施設を含め広大な城跡に驚きました。  
米沢の経済力がうかがえました。  
蔵王山は快晴でしたがいい風があり汗もかかず快適でした。  
皆さんこの位の楽な山歩きがこの会にはいいとおっしゃってました。  
楽なコースなのであまりバラけることなく移動したので、集合写真撮影が多かった。  
特に映える御釜ではまたかい？の位撮りまくり。  
キリン草、リンドウ、コマクサなども多くあり、足に余裕があるので「あそこに咲いてた」と言うのと撮りに戻るし！  
瀬波温泉では夕日とスーパーブルームーンでした。  
弥彦神社は年間 140 万人訪れるだけあり、おもてなしがすばらしかったけど、新潟の暑さはハンパなかった。  
ゴーカホテルに二泊しましたが、一泊は海辺りの民宿がいいな、の声がありました。

なべさんの服装がジミーで皆さんから不評でした。

ヒサオさんが突然不参加？  
帰って新聞見たら別のイベントへ？  
フルネーム(年齢、写真付き)で出てました。

私とタキさんは参加して、メーレーで行ったので  です。  
まあ就寝時間が 2 時間は早めだったのが良かった。



## 第 65 回 現地研修会

『高岡&澤田両会員の二の池ヒュッテに泊まる御嶽山』に参加して  
—第 65 回現地研修会（御嶽山）報告—

塩沢 乃武行

- 期 間 9月20日(水)~21日(木)
- 参加者(順不同、敬称略)  
杉田、細萱、横田、塩澤、熊谷、小林、出澤、鈴木(8名)  
二の池ヒュッテメンバー 高岡、澤田(2名) (計10名)  
業務途上参加 渡邊(1名)

### ■ コース報告

●9月20日水曜日 雨のち晴れ

朝の5時20分に自宅を出発、三才山トンネル経由王滝口登山道入り口(田の原)駐車場8時45分頃到着。塩尻付近の雨の中、中止になってしまうのではないかなと思わせるほどの雨が降っていましたが、桔梗が原付近では路面に雨跡はなく初めて行く道ではあるがナビの指し示すま

ま国道19号線から20号線へ木曾川を渡って御嶽スキー場ゲレンデのワインディングロードを通りながら目的地、田の原駐車場に到着しました。

◇田の原駐車場

9時少し前にビジターセンターを出発、石造の鳥居をくぐって山道に進みました。

◇田の原大黒天

大きな五円玉にビックリ、道中の安全を祈願して先へ進みました。

◇田の原遥拝所

山頂まで登ることができない方がここでお参りが出来るところ、御嶽山を遥にのぞみながら拝礼する。

老若男女体力差にかかわらず拝礼できる心遣いは御嶽山のすごいところだと感じました。

◇王滝頂上社務所

御嶽山の山頂に着いたものと思いきやその先が有ったことに驚きつつ、植林限界を過ぎた岩体・砂礫を進む『八丁ダルミ』を経て御嶽山山頂へ。

◇御嶽神社(剣ヶ峰)標高 3067m

雲が沸き上がる様子を南に臨みながら昼食休憩、細萱さんと出澤さんの到着を待って、北側には一の池から五ノ池まであり、その昔の火口が北東方向に展開していたのだと、それを垣間見ながら移動しました。

二の池山荘をヒュッテと取り違えてしまいながらも矢印・案内を頼りに移動しヒュッテに着くことができました。

◇二の池ヒュッテ14時到着 ほぼ予定通り

先行された先生・久雄さんは麦の泡の中にいました。全員そろい、コタツ2つくっ付けて懇親・懇話会がいつ終わったのかわからないくらい日本酒・ウイスキーをいただきました。

階奥の部屋に噴石(2014/9/27)9年前のままの部屋を拝見、バレーボール大の噴石が屋根・天井を貫き、その威力と恐ろしさ、御嶽山が活動していることを痛感しました。

●9月21日木曜日嵐(風雨)

二の池ヒュッテ8時10分出発。

みんなでヒュッテ内と入口で集合写真撮影後出発、レインウェアをまとい叩きつけるような雨と風の中を進みます。

高まきを山頂左に意識しながら刺さるような痛さの風雨の中を更に移動、王滝頂上社務所を経てハイマツの林間に入る、『横殴りの風雨』をしのげる区間に入ったことで少し安堵しつつ進みました。

●田の原遥拝所

「戻ってきたな」感を味わいながら大黒天の前にて無事の帰還を御礼、石造鳥居をくぐって田の原駐車場前ビジターセンターへ到着しました。

●ビジターセンター10時10分到着

なんと2時間、コースタイム的には3時間になるところを下山することができました。

更に早かったのは久雄さん。前の日の夕刻、麦の泡にまみれ、米のエキスを沢山いただいているはずなのに、強靱な肝臓と体力の持ち主！高冷地トレーニングの覇者ですね、毎回尊敬の念と驚きを覚えます。

ビジターセンターでは2014年9月27日の災害・被災状況・被災された方の証言を拝聴することで改めて自然の力、火山噴火の脅威を確認することができました。上高地での焼岳に対する意識を新たにすべきと感じました。

■最後に

高岡さん、澤田さんの二の池ヒュッテの物心両面のご対応、渡邊さんのお気遣い、参加された皆様のおかげを持ちまして、無事にまた一般の方では体感できないことを享受できたことにつきましてお礼申し上げます。ありがとうございました。



## 明神養魚池メンテナンス（2023.10.21）報告

小林 久雄

明神メンテナンス、今回は日帰りで実施しました。

水不足など暑かった夏のせいなのか？泥は少なめで、落ち葉を片付けて、用水路の草刈りをして、短時間でテキパキとサクッと寒い中頑張りました。

現役、芝浦の若手古籬さんに飛び入り参加いただき、寒い中無事に終了。

魚も喜んでいました。



## 追悼 立花 裕美子さん



### 立花 裕美子さんへ送る言葉

会長 山口 孝

先日、市民タイムスのおくやみ欄を見て立花さんの訃報を知り、大変驚きました。

友の会設立当時より、各研修会、山行に積極的に参加され、とてもお元気だったので、いまだに信じられません。

長い間、楽しい時間におつきあい頂き、本当にありがとうございました。謹んでお悔やみ申し上げます。

### レクイエム

副会長 竹原 文子

立花さんは特別な人だった。

明るく元気いっぱい、彼女がいるだけで友の会が活気づいた。

現地研修会には率先して参加して下さり、女性会員の少ない中でいつも一緒だった。

とはいえ、登山では健脚を生かし先生と共に常に先頭を切っていて、その速さは羨ましい限りだった。

ヘタレの私は後方でやっと付いていくのに精いっぱい、先頭とおしりの女性にはさまれて男性陣が登っていくという感じだった。

しかし、彼女の最大の功績は、何ととっても子どもキャンプであろう。10年近く続いたこのキャ

ンプは、彼女がいなければ催行できなかったと思う。

子どもに対する心遣いが抜群で、イベントを盛り上げ、一緒になって楽しみ、最後の子どもたちの感想文には一人ひとりに丁寧なコメントを付けてくれた。子どもたちはうれしかっただろう。自分のことを見ていてくれた、と。

様々なタイプの子どもたちがいたが、上手くまとめて楽しませた。私にはできないことで、彼女の手腕には感嘆した。

まだまだご一緒できると思っていたのに、急に逝ってしまった。

会にとっても私個人にとっても得がたい人だったのに、どうして?といまだに実感がわからない。

魅力ある人ほど早く逝ってしまうのかな.....。

とても悲しいです。

安らかにお眠りください。



## 追悼 立花 裕美子さん

運営委員長 小林 久雄

まったく、まさかのお知らせでした。とても残念です。心より哀悼を捧げます。

友の会若手のマドンナの逝去のメールが深夜、澤田さんから届きました。

6月の筑波山・袋田の滝に参加されて、いつもの様子はみられずに少し心配していましたが.....。

9月の御嶽山二の池ヒュッテに参加されずに心配していましたが、体調を崩されていたのですね。

思い出は鳥海山の山頂付近の岩場を少女の様に燥いでいたのが、思い起こされます。

Kids キャンプのキャンプファイヤーでの歌唱指導やゲームでの手腕には感動し、感謝していました。

又、葉づくりや報告文集にも優しいコメントをひとりひとりに丁寧に書き添えていただき、子供達はとても良い思い出となったでしょう。

王滝村の村議など務めて女性のリーダーとしても活躍され、友の会の山行では何時でも先頭で

登頂し、明るくて元気な裕美子さんが思い出されます。コロナ禍の瀬戸川美林を訪ねたのもつい最近のことです。三浦ダムも推奨されていて、愉しみにしていました。

佐世保生まれとかお聞きし、王滝に移られてからの活躍は素晴らしいモノでしたね。聞くところでは8年以上の闘病生活とか、立花さんでなくてはとても無理です。

謹んで心よりお悔やみ申し上げます。 合掌

立花 裕美子さんを偲んで

運営委員 澤田 義幸（王滝村）

本会の会員であり運営委員の立花裕美子さんが病氣療養中のところ 10月5日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

立花さんと私は信州大学山岳科学研究所の一般開放講座に参加するようになり、友の会への入会は2012年だったと思います。

入会以来立花さんは友の会の活動によく参加され会を盛り上げていました。

特に地元でもある王滝村への現地研修会『瀬戸川美林を訪ねる』の際には、計画の立案をするとともに、シェフであります旦那（京寛）さんをお願いし、料理を提供していただけるよう手配をしていただきました。お陰様で参加された方は美味しい料理に舌鼓を打つことができ、大満足でした。

また、彼女は私が参加できなかった現地研修会やキッズキャンプなどの話も、酒を飲みながら楽しく話してくれました。

立花さんは8年前に病が見つかり治療をされていました。治療中でも友の会事業には積極的にかかわり、療養中の人とはとても思えない行動をしており、驚嘆するとともに楽しい思いをさせていただきました。

何事にも前向きに取り組んでいく姿に元気や勇気をいただきました。ありがとうございました。

合掌

2023年10月25日



【写真提供：荻野 秀夫】

信州大学山岳友の会会報 第49号  
発行日：2023年10月30日 発行：信州大学山岳友の会  
〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 信州大学山岳友の会事務局  
TEL：0263-37-3332 FAX：0263-37-2438 E-mail：suims@shinshu-u.ac.jp